

京都工業会ニュース

基本理念
—21世紀を担うモノづくり集団—
京都からモノづくりイノベーション

2012 No.370

福岡県産業視察

福岡・北九州の最先端研究・エコの取組み

平成24年2月16～17日、服部会長、錦織、片岡両副会長ら本会役員・会員16名が、福岡県の産業視察を行った。初日はS I I Q主催のエグゼクティブ交流会に参加、二日目は九州大学の最先端研究所O P E R Aを訪問し、北九州市のエコタウンを視察した。

平成23年度 エグゼクティブ交流会



▲S I I Q主催エグゼクティブ交流会にて服部会長挨拶

なお、九州半導体・エレクトロニクスイノベーション協議会（S I I Q=Silicon Island Kyushu）は一年前に入洛、京都企業と交流し、島津製作所において同会企業の内覧会があり、今回は京都側が同会を訪問した。

2月16日(木)

< S I I Q主催エグゼクティブ交流会への参加 >

佐々木元協議会会長（日本電気株特別顧問）は「九州の半導体産業は自動車産業に次ぐ1兆円規模である」と、服部会長は「ものづくり企業が技術を磨き頑張っていくことが大事だ」と述べられた。また、瀧本徹九州経済産業局長は、海外展開、国内広域連携の拡大、需要サイドに立った価値創造型産業の重要性を訴えられた。

特別講演と企業プレゼンの後、S I I Q役員、九経局幹部との和やかな中にも熱心な交流懇談が行われた。

■ルネサスエレクトロニクス(株)那珂工場 青柳隆工場長
九州経済産業局地域経済部 平井淳生部長

『震災からの復興』と題して茨城県の同工場の復旧・復興について特別講演された。同社はマイコン、アナロ

グ&パワー半導体、システムL S I を3本柱として1兆1千億の売上を持ち、うち同工場は2,000名、12時間×3日勤務で24時間365日操業されている。

大震災の被害は電力、工場用水のストップ、受電設備、クリーンルームなどのほか、排気ダクト、電源ケーブル、システムサーバ、事務所など工場のすべてに及んだ。

4月には修復、試験生産など早期復旧に取り組んだが、ポイントは、8万人日に及ぶ支援、24時間×7日体制、短工期化、チームワーク、安全管理の徹底である。対策本部を大部屋に置いて情報共有し、問題点を抱え込まず、手作りだからこそ達成感・一体感が得られた。

新B C Pと今後のリスクへの取組みとして、耐震強化、在庫管理、代替工場、被災工場からの再商品、お客様とのリスク情報の共有と協働が重要だと述べられた。

■(株)片岡製作所 片岡宏二社長（本会副会長）

『当社の開発戦略について』と題して講演された。「フロンティア精神を持ち、研究と自己修練に努めること」を重視し、レーザ加工機、I T関連製造装置、環境関連製造装置を重点3事業としている。カタオカレーザシステムは、自社製である発振器とN C、加工テーブルを一つのシステムとして設計・製作することを特徴とし、用途は自動車部品、携帯電話、太陽電池、P C等の電気電子部品の微細精密な溶接、切断、穴あけ等の加工である。

開発コンセプトは、①ニッチトップ商品を目指す=トップのメリットは情報が早く、プライスリーダーになれる、②開発期間の短縮=社内の体制と大学・企業との技術交流、技術提携、③持つ技術と出来る技術=自社の技術と他社の技術を管理できること、である。

質疑応答で、21世紀は微細加工の時代であり、レーザのアプリケーションを拡大したい、また、京都のイノベーション風土について、京都はうまく棲み分けしている、仲よくホンネで切磋琢磨している、自分は白鷺クラブなど京都工業会に育てられた、と答えられた。

■(株)ロジック・リサーチ 土屋忠明社長(SIIQ広報部会長)

『少量多品種ASICの実現に向けて』と題して講演された。20年前30歳で脱サラし、社員6名でLSIの開発・製造・販売、特に、半導体メーカーからの受託設計で低コスト・ハイパフォーマンスを目指されている。

通信用GAの受託設計から画像処理ASICの受託設計、カスタムLSI開発&販売へと重点を移し、パナソニック「おたっくす」では出荷累計3千万個に達した。

九州大学や県工業技術センターと補助金を活用して研究開発・事業化し、DIS-CON品の再開発、セカンドソース、FPGAの置換(コストダウン)、限量生産品の開発など、競争力の高いASICを適切な価格で提供し、利益率の高い特殊な製品を短期間で開発販売する提案型ビジネスによりお客様のニーズを満足させることができが目的で、売り上げよりも利益を重視している。

質疑応答では、開発費2,000万円もらえば最少受注ロットは何個でもやる、半導体ベンチャー協会の理事で築いたネットワークの重要性、技術のブラックボックス化には匠の技で対応するなど、情熱的に語られた。

2月17日(金)

〈九州大学 最先端有機光エレクトロニクス研究センター〉



▲九州大学OPERAにて

安達千波矢教授率いる通称OPERAを見学。国の「最先端研究開発支援プログラム(FIRST)」に採択され、内閣府の「総合技術科学会議」で安達教授の「スーパー有機ELデバイスとその革新的材料への挑戦」が国内トップ研究者30人(他に、島津製作所田中耕一フェロー、京都大学中山教授ら)とその研究課題に選定された。

有機EL(エレクトロルミネッセンス=電界発光)は有機物に電圧をかけて有機物自体が発光する現象で、省エネ・薄い・フレキシブル・環境配慮・照らす範囲が広いなどの長所があり、有機(光)エレクトロニクス産業は、次世代の基盤技術として、環境・エネルギー、情報通信、医療福祉等広範な産業分野でのアプリケーションが可能、国内外の企業が研究開発競争に参入してきている。

OPERAでは安価な材料で100%の発光効率が可能な「熱活性型遅延蛍光材料」を開発研究しており、2012年には実用化を目指した応用研究のセンターを開設予定で、アジア最大の産学官連携アライアンスの拠点を目指している。

■九州大学関係者等との意見交換

ドイツのフランホーファー研究所のように伊都キャンパスを中心とした産学官連携サイエンスパークの形成を目指している。九州大学は5年後には30%が外国人学生になる。アメリカのように世界から学生・研究者が集まりそのまま残ってほしい。

材料の日本のレベルは世界トップであり、知財をとつて逃げ切りたい、また、液晶の二の舞を踏まないため附加価値のキラーデバイスとなるアイデアが必要である。

〈北九州エコタウン～北九州市の取組み〉

■「九州大学学術研究都市構想」～(財)同推進機構

つくば、けいはんなに次ぐ学研都市構想だが、国の法律に基づくものではない。分散していたキャンパスを伊都地区に集約する構想で、平成16年に経済界、自治体も加わった推進機構が設立、31年には学生数1万8千人となり、キャンパスを中心に市街地、交通インフラなどを整備した快適空間、タウンオンキャンパスを目指す。

■「北九州市の環境産業政策」「低炭素社会に向けた北九州市の取組み」「北九州スマートコミュニティ創造事業」

北九州市では、公害を克服するため①大学等の教育・基礎研究②大学・企業等による技術・実証研究③総合環境コンビナートなどリサイクル事業・環境ビジネス展開などの事業化を進めている。

平成20年環境モデル都市に選定されアジアの低炭素社会経済を拓く環境フロンティアを目指し、北九州スマートコミュニティとして次世代エネルギー・社会システム実証地域にも選定されている。新エネ街区、街区まるごと省エネなど地域エネルギー・マネジメントシステムによりゼロ・カーボン先進街区を志向している。

地域節電所を中心にスマートメータ、HEMS、BEMS、水素電力貯蔵システム等と連携したタウンマネジメントやデマンドサイドマネジメントを構築する。

■北九州エコタウン

環境保全と産業振興を統合した地域政策で1997年から推進。若松区に大学、企業等の実証研究施設群と、リサイクル工場群の総合環境コンビナートを整備し、環境調和型のまちづくりを進めている。

■自動車リサイクル工場の見学

エコタウン内の西日本オートリサイクル(株)の自動車解体リサイクル工場で1台50分、月1,000台を処理、99%がリサイクルされ、リユースパーツはネット販売し、非金属部品、製鋼原料、銅・アルミ・真鍮を回収し、最後はサイコロプレスで新日鉄の製鋼炉で溶融する。

〈おわりに〉

この分野のトップランナーとしての意欲的な取り組みに触れるとともに、先方からは京都企業との交流を訴えられ、有意義な視察となった。なお、今回、経済産業省九州経済産業局の格別の計らいをいただいた。

公益社団法人としてスタート

京都工業会は平成24年4月1日から「公益社団法人 京都工業会」としてスタートすることになります。

これまでの社団法人は新法人制度に移行することが義務付けられていたため、京都府に公益社団法人への移行申請を行っていたところ、3月21日知事から認定書を受け取りましたので、4月1日付けで京都法務局に登記を行いました。

新しい法人となっても工業会の活動はこれまでと全く変わりませんので会員、関係者の皆様方には引き続きご支援ご協力をよろしくお願ひ申し上げます。

2012年 京都工業会・新春交歓会を開催

1月23日夕、ハイアットリージェンシー京都において、『2012年 新春交歓会』が、会員企業トップを中心に約130名の出席を得て開催された。会員相互が和やかに交流し親睦を深めることを目的とした本交歓会は、今回が19回目となり、過去最高の参加者を数える盛会となった。

最初に、服部重彦会長より「昨年は東日本大震災をはじめ、円高、タイの大洪水、更には欧州金融不安など、内外で未曾有の事態が立て続けに生じた1年でした。私達企業を取り巻く状況も厳しさを増しておりますが、会員相互のこれまで以上に緊密な交流を通じて、互いに自らの企業を更なる発展に導いて行きたいと思います。本日は大いにお楽しみ下さい。」との開会挨拶が行われた。続いて作田久男副会長の乾杯発声により開宴、そして天野嘉一・依田 誠・林 泰彦・片岡宏二各副会長より、新年の御挨拶が述べられた。

しばしの会食懇談の後、昨年の総会以降入会された新入会員である全日本空輸株京都支店・岸田洋支店長、(株)トーコー京阪支店・高見晃平支店長が登壇、各自の紹介と挨拶が行われ、大きな拍手が送られた。

続いて恒例の「福引大会」が行われ、会員企業56社より提供いただいた90組にも上る、こちらも過去最多の景品の当選者が次々と発表され、景品当選者の歓声や拍手が続いた。

更に会食懇談・交流が進み、会が盛り上がる中、毎年恒例の締めくくりのプログラムである、「2012年ハッピ



ーマン選び」が行われた。各テーブルでジャンケンをし、勝ち残った人達が舞台上に集合、そこで再度ジャンケンをして最後に勝ち残った人が幸運の「2012年ハッピーマン」、惜しくも敗れた他の各テーブル代表者が準ハッピーマンとなった。「2012年ハッピーマン」は井野光久氏(株)イー・ピー・アイ 管理部長)で、服部会長より記念品が手渡され喜びのスピーチが行われると、満場の参加者から大きな祝福の拍手が送られた。

その後も懇親交流が繰り広げられ、歓談の輪が広がる中、片岡副会長より、「東日本大震災の被災地を訪問し、当たり前の生活の有難さを感じた。被災地には努力しても出来ない方達もおられる。私達は努力できる環境にあるのだから、精一杯努力をしていきましょう。」との閉会挨拶が行われた。多くの参加者を迎え、例年にも増して賑やかに盛り上がった2012年新春交歓会は、盛況裡に閉幕した。



▲福引大会



▲ハッピーマンを目指して、ジャンケン



▲2012年 ハッピーマン

ハードロック工業(株)を訪問



2月23日、中堅企業委員会（委員長：竹ノ内壯太郎 三和研磨工業(株)社長）では東大阪市のハードロック工業(株)に若林克彦社長を訪ね、工場見学及び意見交流を行った。

同社は昭和49年4月、若林社長が創業、従業員数約50名、年商約10億円の中小企業、特にモノづくり企業の全国的なモデルケースとして著名である。

若林社長は少年時代からモノづくり、製品開発の魅力にとりつかれ、企業の設計技師として勤務した後、28歳で創業した。その後幾多の苦労を重ねながら、楔（くさび）の原理を応用したオンリーワン商品「ハードロックナット」を開発、世界でも例を見ない絶対にゆるまないナットは、国内はおろか、世界から評価され注目を集めてきた。

ハードロックナットは日本の新幹線をはじめ台湾・中国・ドイツ・イギリスなどの高速鉄道、更には東京スカイツリー、瀬戸大橋などの「ゆるみの許されない」ことが求められる交通機関や建築物に幅広く採用されている。

当日は若林社長から、従業員3名でスタートした創業期に食いつなぐために必死の努力を重ねながらも夢を持ち続けたこと、中小企業は人と同じことをやっていてはダメでオリジナリティが必要、「もたざる者」はヒト・モノ・カネなど先立つものがない、アイデアで勝負するしかない。座右の銘は「アイデアは人を幸せにする」であり、どうすれば良いアイデアを生むか考えるべき、などと述べられた後、モノづくりを中心に営業や人材、海外進出など同社長が経営上大切にしてきたを中心熱弁を振るわれた。

これを受け、同社長をかこみ経営全般について熱心な意見交換を行い、竹ノ内委員長が丁重に謝辞を述べて同社を辞した。

その後席を変えて委員会を開催、ハードロック工業(株)訪問の感想を述べ合った後、新年度に向けた委員会活動について活発な意見を交わし、盛会裡の中に同委員会を閉会した。

京都高等技術・経営学院

第31回 電子システム研究科 16名
第28回 メカトロニクス研究科 23名が修了

2月29日(水)午後、平成23年度の京都高等技術・経営学院（学院長：天野嘉一副会长）の長期研修2コースの修了式が京都工業会館にて行われた。

当日は、修了証書の授与、皆勤・精勤賞の授与に続き、本会副会长の天野嘉一同学院长の式辞、そして来賓の京都府中小企業技術センター 副所長 三宅修二氏（京都府知事代理）より祝辞が述べられた。

<第31回 電子システム研究科>

修了生 16名（12社）

皆勤賞（5名）

小林 京平（京セラ株）
辻 真二（株島津製作所）
中嶋 一雄（株島津製作所）
松阪 努（日本輸送機株）
佐久間吉彦（株三橋製作所）

精勤賞（4名）

春川 涼（株京都科学）
福塚 唯志（月桂冠株）
折山 雅至（株島津製作所）
前本 和輝（日東精工株）

<第28回 メカトロニクス研究科>

修了生 23名（16社）

皆勤賞（5名）

井上 雅輝（株片岡製作所）
岩崎 翔太（株G S ユアサ）
尾山真太郎（株G S ユアサ）
清水 裕太（株G S ユアサ）
中谷 崇史（株三橋製作所）

精勤賞（12名）

安西 稔（株カシフジ）
山岸 典弘（株片岡製作所）
竹内 寛雄（京都機械工具株）
森本 健嗣（グンゼ株）
荒川 陽（株G S ユアサ）
吉屋 知範（株G S ユアサ）
柴田 晋平（株大日本科研）
常松 明史（株大日本科研）
宇山 貴雄（トタニ技研工業株）
北川 康則（日本輸送機株）
浅野 義和（ヤマウチ株）
井上大喜郎（株山岡製作所）

辰年の内外経済を占う～日本の活路を求めて

日本経済新聞 編集委員 滝田 洋一氏

国内外経済にとって波乱の1年となった2011年。2012年の年頭にあたり、日本経済新聞の滝田洋一氏をお迎えし、激動の中、日本経済のゆくえについてお話を伺った。



2012年は世界の主だった国で選挙（指導者交代）が行われ政治的激動期にさしかかっていること、欧州危機やイランを巡る状況と今後の見通し等国際情勢を述べられた後、日本経済の長期低迷の要因と現状を解説され、「日本企業にとってグローバル化の流れは非常に大きく、更に、海外のM&Aや直接投資という日本の企業行動が国内の金余りといわれた状況を大きく揺さぶりつつある。財政で安定的に国債がさばけるというような環境が企業行動の変化を通じて挑戦を受けつつあるのではないか。一方、先行きの見通しとしては、個人消費も含めて今まで低迷していたものに変化の兆しが出て来つつあるのではないかと思っており、その辺の色々な要素をうまく扱うか否か…要は、政策担当者も企業の経営者も与えられた与件の中で、今年はチャンスが出てくる代わりにリスクも大きいという、爪先立って勝負する年になるのではないか。」との見通しを示された。

野田改造内閣と日本の課題

同志社大学 法学部長・教授 村田 晃嗣氏

東日本大震災からの復興、消費増税、普天間基地移設、超円高対策等諸課題を抱える中、野田改造内閣が発足したことを受け、同志社大学の村田



晃嗣氏をお迎えし、お話を伺った。現在の政局と今後の見通し、消費税率引き上げの背景、アメリカ同時多発テロ後の世界（テロが与えた影響）とこれからの日米関係、そして東日本大震災からの復興について述べられ、最後に、日本政治における“リーダー不在”論について、「皆、リーダー不在と言うだけで思考停止している。リーダーとは何か、とは状況によって異なるので言い難いが、リーダーが成立するために必要不可欠なのは“フォロワー”がいること。付いて来る人がいなければリーダーにはなれない。リーダーはフォロワーとセットの対概念である。従って、我々のフォロワーとしての資質を高めなければリーダーは生まれない。フォロワーとしての資質を高めるためには、①国民意識と市民感覚の両立 ②多様性 ③感受性 ④忍耐力 が必要である。」と述べられた。

京都市産業技術研究所 訪問

織維技術センターと工業技術センターが統合し、京都市の新しい産業技術拠点として平成22年10月に誕生した京都市産業技術研究所を訪問した。最初に、



淀野副所長より同研究所の概要と、「京都らしいものづくりを支えるための4本柱の技術支援（技術移転・指導、研究開発、試験・分析、人材育成）」や「研究開発の出口であり、新しい京都ブランドの創出を目指す知恵産業融合センター」等事業の説明が行われ、新しい産業技術研究所として積極的に京都のモノづくりに貢献していくとの姿勢を強調された。続いて3班に分かれて同研究所内を見学。近代産業関連を中心に最新の機器を前に各研究員の方々から懇切丁寧な説明を受けた。見学後、参加者からは利用のための手続きについての質問が出るなど関心も高く、有意義な見学会となつた。



▲漆塗りと加飾が施された同所1階エレベーター扉
(伝統技術と先端技術の融合の象徴。寄贈品。)

ウエルネス産業人材育成セミナー

第6回ウエルネス研究科・後期コースを開催
　　本会と京都府、(公財)京都産業21が共催

1月25日から2月28日まで計5回開催した後期コースでは、医療関連分野で産学連携に取り組む大学研究者や企業経営者などによる実践的かつわかりやすい講演や視察を通じて、ウエルネス産業分野に進出するためのキーパーソンを育成し、各企業の参入をサポートすることを目的に開催した。（受講者数：20名）

- ①「モノづくりのビジネスチャンスが広がる再生医療」
　　京大再生医科学研究所 教授 田畠泰彦氏
- ②「モノづくり企業が知るべき薬事規制の仕組み」
　　(財)医療機器センター上級研究員 鳥井賢治氏
- ③「中堅・中小企業の医療ビジネス参入へのポイント」
　　三菱UFJリサーチ＆コンサルティング(株)
　　チーフコンサルタント 畠地 裕氏
- ④「医療の革新をものづくり技術が拓く—
　　マイクロマシン・MEMSの医療応用」
　　立命館大学理工学部 教授 小西 聰氏
- ⑤「整形外科領域で求められる医療材料」
　　神戸大学医学部 准教授 黒田良祐氏
- ⑥「未来を見据えた医療分野への挑戦」
　　一産学公連携が会社を変えた
　　山科精器(株) 社長 大日常男氏 (同社工場視察含む)

～他社の風土(手法、仕組み、ものの見方、考え方)に相互に触れ、注目の現場力及び人間力の向上を図る～

平成24年度 業務革新研究会・会員募集

- ◇開催目的 各種手法やものの見方や考え方を磨き、業務革新を推進する人材の育成を図る
- ◇対象 管理技術関連部門のリーダー（主任、係長）及びその候補
- ◇会場 京都工業会館（京都市右京区西京極豆田町2）ほか
- ◇期間 平成24年4月～平成25年2月（計11会合） 13：30～17：00（但し、6～7月例会は10：00～17：00）
- ◇運営 ①メンバーの目標や課題について、正副主査（その年度の登録メンバーより選出）を中心に企画し、基本を踏まえた実践的な運営を図ります。
②メンバー間のギブ＆テイクや専任アドバイザーの助言、ゲスト講演、工場見学、演習などを効果的に実施いたします。
- ◇メリット ①実践的な内容により、一般のセミナーでは得られない幅広い視野と発想力を養うことができます。
②メンバー間やアドバイザー及びゲスト講師との人的ネットワークが構築できます。
- ◇展開 前期・基本編（5月～9月）⇒参加目的や実務経験に応じた選択制を採用
Aコース：手法や考え方を基礎から学ぶ、Bコース：応用実務研究
後期・実務編（10月～2月）⇒コース毎の課題の掘り下げ（必要に応じ実習、大会等を開催します。）
※定期活動以外に特別合宿研修会（1回：全研究会対象、希望者のみ）を開催します。（要特別会費）
- ◇年会費 各研究会毎に1口 京都工業会 会員企業 70,000円（税込）
(但し、1口につき2名の参加ができますので、極力2名ご登録願います。)
- ◇申込 京都工業会 業務課 TEL.075-313-0751

【総合オリエンテーション・第1回会合】 4月24日(火) 13：30～17：00 於：京都工業会館

〈8研究会の主な研究予定項目〉

品質革新研究会 一初期流動管理及び工程内品質対応による品質革新力の強化—

- ◇初期流動管理による生産初期段階の品質向上
◇手法活用による工程内不具合及びサプライヤー、客先クレーム&故障解析
◇企画、開発段階での新製品評価方法
◇ソフトウェア開発における品質保証方法
◇企業訪問や講演による先進企業の事例研究

生産管理（TOC）研究会

—TOC制約条件理論による生産管理革新—

- ◇生産管理の基礎研究ともの作りにおける問題解決方法
◇生産方式（MRP、製番、かんばん）の違いと管理ポイント
◇生産管理システムとIT活用事例（ERP）
◇先進企業の訪問や事例紹介に学ぶ生産管理システム
◇参加企業における全体最適もの作りの研究（TOC実践演習）

購買調達革新研究会 一購買調達革新によるコスト競争力の強化—

- ◇あるべきコストの求め方と運用及びコスト体系
◇購買市場調査の計画立案と進め方
◇パートナー企業の集約・評価、指導、育成方法
◇下請法に基づく集中購買、拠点購買、開発購買等、購買戦略
◇グローバル調達とSCMを組み合わせた新しい調達方式

生産革新研究会:基礎IE部会

—IE手法による徹底したムダの排除—

- ◇3S、5Sの導入・定着と効果的な運用方法の事例
◇IE手法・通り診断法による効果的な現状分析
◇標準作業3点セットによる改善方法
◇現場改善実習による作業改善方法の実践
◇外部企業訪問によるIE活用事例研究

生産革新研究会：JIT改善部会

—トヨタ生産方式による生産革新力の強化—

- ◇JIT生産構築方法
◇流れ生産方法
◇平準化方法及び各種ツール（ICタグ等）活用
◇かんばん、ストアードの運用・管理
◇JIT生産企業の訪問やメンバー企業におけるJIT実践

VE（開発・設計革新）研究会 一機能研究による付加価値の追求—

- ◇簡易演習によるVE活動の実施手順
◇開発設計プロセスにおけるVE活用
◇開発設計プロセスにおけるQFD、DR
◇企業の事例を用いた開発、設計段階のVE実践
◇先端事例に学ぶVE実践、リーダー育成方法

生産現場リーダー力強化研究会

—監督者哲学、リーダーシップ養成の場—

- ◇作業の標準化による品質の作りこみ
◇改善提案、5S、KY活動による強い現場作り
◇製造コストダウン（設備、治具、工程改善）
◇リーダーシップ（部下指導・育成、監督者哲学）
◇企業訪問による現場管理・改善事例の研究

設備保全（TPM）研究会 一自主保全、個別改善、LCAによる設備稼働率向上—

- ◇生産システム効率化の個別改善
◇オペレーターの自主保全体制づくり
◇保全部門の設計保全体制づくり
◇品質保全体制づくり
◇先進工場訪問によるTPM活動の推進事例の研究及び参加企業でのTPM実践研究

平成24年度

知的財産権研究会 ご案内

目 的 知財スタッフとしての業務推進力の向上、及びヒューマンネットワークの構築

対 象 者 知的財産権関連部門の中堅実務者及び同候補

期 間 平成24年5月24日(木)～平成25年2月
原則として毎月第4木曜日 13:30～17:00開催

会 場 京都工業会館ほか

運 営 ①代表幹事を中心に企画し、参加者の意見を基に柔軟に運営を図ります。
②◇ゲスト講演 ◇企業見学 ◇裁判傍聴・
口頭審理傍聴 ◇判例研究 ◇ディスカッション等の活動手法を用いて知財感覚を磨き、効果的に実力アップを目指します。

メ リ ッ ツ ①特許権等の関心が高い領域の課題や実務上の悩みなどについて、基本を踏まえた実践的な運営により普段の業務では得られない実力を付けて頂きます。
②一般のセミナーや社内のみでは得難い幅広い視野や考え方を養え、社内での問題解決の糸口を得ることができます。

専任アドバイザー 日本新葉(株) 知的財産部担当部長・弁理士
清水尚人氏

年 会 費 本会会員企業 70,000円／1口 (税込)
(1口2名まで登録可能です。)

問 合 セ 京都工業会（業務課） TEL.075-313-0751

上海市工商業連合会訪日団が
工業会を訪問

2 / 22

去る2月22日(水)、上海市工商業連合会訪日団13名が、工業会を表敬訪問された。今回の訪日は、京都府及び公益財團法人京都産業21が、中国ビジネス支援の一環として企画、招聘されたものだが、本会の「2011中国産業研修観察」の際に同連合会と交流しており、今回の訪問はその返礼の意味もこめられている。黄瀬専務理事から、本会が2010年から取り組んでいる中国進出サポート事業を紹介し、今後も相互にWIN-WINの関係を築いていきたいとあいさつ。続いて、訪日団長である上海市工商業連合会の金亮副主席が上海工商業連合会の概要や訪日団のメンバー企業を紹介、これを機に京都企業とのより一層のビジネス交流を深めていきたいと述べられ、和やかな懇談がなされた。

その後、京都企業を見学された訪日団一行は、同夜、京都国際ホテルにおいて、京都府、京都商工会議所幹部や本会が昨秋実施した2011中国産業研修観察団・団員など多数の企業関係者とのビジネス交流会や歓迎レセプションを通じ、積極的な交流を深めた。

徹底したムダの排除による原価低減と
人材育成に取り組もう！

第14回 京都KAIZEN大会を開催

今、変種変量短納期生産の時代を迎え、生産部門には段取り改善やカンバン方式によるフレキシブルな生産体制の構築が求められているが、本会ではこれらの課題への対応事業として、1999年より「京都KAIZEN大会」を開催している。

この事業は、IE手法の効果的な活用方法を研究している本会・生産革新研究会：基礎IE部会及びトヨタ生産方式の構築方法を研究しているJIT改善部会をベースに広く会員内外に参加を呼びかけており、今回も61社110名の参加者を得た。

冒頭、技術・教育委員会 委員長 太田 稔氏(日新電機(株))が「厳しい経済情勢の中、他社の事例や講演を通して、今後の自社の生産革新活動に活かして欲しい」と挨拶。

先ず、第1部として、基礎IE部会が、(株)山岡製作所宇治田原工場(基礎コース)と開明伸銅(株)(応用コース)とで行った現場改善実習についての成果をそれぞれ報告した。

その後、実習会場をご提供いただいた(株)山岡製作所取締役製造部長 横田吉男氏と開明伸銅(株)社長 岡村圭一郎氏が、「異業種の方々のアイディアは、ヒントになる。今後、出来るテーマから取り組んでいきたい」とコメントを述べられた。

そして、基礎IE部会 アドバイザー 吉植久正氏(NPSソリューション代表)が「各コースともIE手法を効果的に活用できた実習だった。やはりIE手法は繰り返し活用することで、使う幅を広げていただきたい」と年間活動をまとめた。

続いて、トヨタ生産方式の構築方法を工場見学を通して研究してきたJIT改善部会より、JIT見学事例やOB企業訪問による生産革新活動のポイントを報告し、JIT改善部会 アドバイザーの岩井一郎氏(生産システム改善研究所所長)が、「JIT生産構築のポイントは、生産の平準化と情報化で各部門をスルーにつなぐ事。」と年間活動を総括した。

そして、第2部は、ソニーイーエムシーエス(株)美濃加茂テックで活用化(成果をあげた人材を次の活動リーダーに抜擢)によるセル生産革新活動を推進された元テックプレジデント 加藤典孝氏(現:愛知工業大学客員教授)が「ムダ取りによる人材育成」をテーマに講演、盛況裡に大会を終えた。

平成23年度 京都府優秀技能者表彰
「現代の名工」
〈機械設計〉 (株)菊水製作所 猪飼 文治氏
〈ガラス製品成形〉 京都電子工業(株) 村上 信夫氏

平成23年度 京都府青年優秀技能者奨励賞表彰
「明日の名工」
〈機械保全〉 日東精工(株) 芦田 正昌氏

本会関係では、以上3氏が受賞されました。
会員各位とともに、心よりお祝い申し上げます。

第44回 通常総会 <予告ご案内>

とき：平成24年5月18日(金) 15:00~18:30

ところ：京都東急ホテル

議題：
・第44期事業報告及び収支決算承認の件
・第45期事業計画及び収支予算決定の件
・役員の任期満了に伴う改選の件

平成23年度 京都中小企業技術顕彰
優秀技術賞受賞
◆(株)最上インクス (社長：鈴木 滋朗氏)
心よりお祝い申し上げますとともに、益々のご発展をお祈りいたします。

事務局だより

山田 高見 (業務課参事)

4月1日に事務局に着任しました。
(株島津製作所から出向)



外部情報



経済センサスキャラクター

平成24年経済センサス - 活動調査を実施しています。

- 経済センサス - 活動調査は、全ての企業・事業所を対象に実施しています。
- 経済センサス - 活動調査は、我が国における産業構造を包括的に明らかにすることを目的とする政府の重要な調査で、統計法に基づいた報告義務のある基幹統計調査です。
- 調査票に御記入いただいた内容は、統計作成の目的以外（税の資料など）に使用することは絶対にありません。
- 調査の趣旨・必要性を御理解いただき、御回答をよろしくお願ひいたします。

総務省・経済産業省・都道府県・市区町村

京都創造者大賞2012 ~創造が生み出す伝統~

創造性に溢れた活動を続け、京都ブランドのイメージアップや京都の都市格向上に成果をあげている事例を顕彰する「京都創造者大賞」は、今回6回目の実施となります。

創造的な取り組みをされている皆様方のご応募、ご推薦をお待ちしております。（自薦・他薦は問いません）

- 募集期間：平成24年4月2日(月)～5月31日(木) ※必着
- 募集部門：「もてなし・環境」「アート・文化」「企業」「未来への飛翔」
- 賞の種類等：京都創造者大賞1点（助成金100万円他）

京都創造者賞 各部門1点（助成金各50万円他）

※詳細・応募方法のお問合せ先：京都創造者大賞事務局（京都商工会議所産業振興部内）

TEL：075-212-6450 FAX：075-255-0428

E-mail：taisyo@kyo.or.jp URL：http://www.kyo.or.jp/brand/taisyo/

京都工業会ニュース No.370

- 2012年4月2日発行
- 発行——公益社団法人 京都工業会

⑧615-0801 京都市右京区西京極豆田町2
TEL.075(313)0751 FAX.075(313)0755
U R L : http://www.kyokogyo.or.jp
E-mail : info@kyokogyo.or.jp